

インタビュー  
Interview 1

## 「真の強さ」を磨き、「さらなる豊かさの追求」を目指す

2008年10月の設立後、2009年度以降2年間連続で増収増益を達成したNTTデータアイ。今中期経営計画の最終年度である今年度の取組みと、次期中期に向けた抱負について、村松充雄社長にうかがった。

### 発足後4年目にして、NTTデータアイの目指す姿が見えてきた

——最近の事業の状況からお聞かせください。

**村松** 4社統合による会社設立から4年を経てやっとNTTデータアイとしての目指す姿が見えてきました。事業基盤は2009年度以降2年連続で増収増益を達成し、今中期の最終年度である今年度も3年連続となる増収増益に向けて奮闘中です。収益力の原動力となっているのが、今中期で取り組んできた請負化拡大やプロセス改善等による原価率の低減であり、着実に年平均0.5%は低減しています。また、人材育成については、社員自らが目標とする人材像を定義して計画的に取り組む「マイロードマップ」施策を展開してきましたが、その仕組みが完成し、い

よいよ本格活用のフェーズに入りました。次に企業風土については、会社として大切にしたい8つの価値を定め、この8つの価値を深く浸透させる「i-NEXT」活動を推進してきましたが、最近ようやく手応えを感じるようになってきました。さらに「モノづくり力業界No.1」を目指して進めてきたソフトウェア生産技術革新への取組みは、ほぼ予定通り当社のコアコンピタンスになってきました。しかし、開発自動化を含めたNTTデータの取組みを、自家薬籠中のものとして推進する立場としてはまだ不十分で、今後も継続して取組みの強化・拡大を図る必要があると思っています。

### 次期中期でのさらなる成長・発展に向け、「真の強さ」を磨く

——次期中期経営計画策定に向けた抱負と今年度の重点施策をお聞かせください。

**村松** 次期中期は、コアコンピタンス構築の第2ステージであり、大きく2つの柱を考えています。1つは、NTTデータとの連携ビジネスで、その中核を握ることです。今後



(株)NTTデータ アイ  
代表取締役社長  
村松 充雄氏

ポスト最適化の時代を迎えるとともに、大規模システム開発の需要増が見込まれます。これに対応しつつ従来ビジネスの強化・拡充を図るためには、リーダーを育成して配置し、中核を握る必要があります。2つ目は、当社独自ビジネスである「i-ビジネス」による社会への直接的な貢献です。i-ビジネスは、NTTデータから事業移管したBaseビジネスに加え、Reborn、Nextの3つのタイプがあります。Base以外のi-ビジネスについては、NTTデータとの連携ビジネスのバリューチェーンを拡大した領域やバリューチェーンをつなぐ領域で、連携ビジネスやi-ビジネスで培ったコアスキルをベースに展開していくことが重要だと思っています。今年度は、厳しい環境下にありますが、今中期の最終年度として計画を達成し、今一度原点に立ち返って、次期中期の目標である「真の強さ」を磨き、「さらなる豊かさの追求」に向けて頑張っていきたいと思っています。

——本日は有り難うございました。



写真1 “次期中期経営計画策定合宿”の様様